



金田地区の北、岡崎地区の耕地です。耕地整理が行き届き、農地の区画は明確です。以前から感じていたのですが、初夏になると、岡崎地区の一部の耕地に白いビニールと思われる資材で被覆された物体があちこちに置かれていました。大きさは、高さ2mほどの円筒状のロールです。

北海道の広大な牧草地で見た、ロールが点在する風景です。ここは、平塚、しかも水田地帯です。広い牧草地は見当たりません。

作業の様子を見たいと思っけていても、農家の人たちは、他人が鑑賞するために作業するわけではなく、自己の計画に応じて粛々と作業を進めます。なかなか農作業風景に出会うことは出来ませんでした。

今年、5月の末でした。自分の菜園作業に取り掛かっていると、少し離れた岡崎地区の耕地に見たことのない農業機械が作動しています。カメラを手に接近。

コンバインではなく、耕運機でもなく、田植え機でもありません。その農業機械は水田作業用とは明らかに異なります。

以下紹介します。作業全般を観察していたわけではありません。ごく一部です。

水田耕作以外の農業の一端です。来年、機会があれば全工程を記録したいと思います。



左手には、ロール状にまとめられたもの（牧草です）がおかれています。アームの先にクワガタムシのような形をしたロールを挟み込む機械、まとめられた牧草。

まとめられた牧草、ネット情報では、「牧草ロール」といいます。植えられた牧草を機械で刈り取り、ロール状にまとめます。



新しい機械が投入されました。



牧草を挟み、左の機械に移します。
作業するのは、老夫婦。話しかけると、牧草のまとめが不十分、出来損ない、
しっかりと巻き込まれていない、と、釈明しきりでした。



次は、ビニールのラップを引き出し、牧草ロールに巻き付けます。
まとめられた牧草のラッピングです。



機械の台が回転し、ラップは自動的にロールに巻き付けられ、しっかりした円筒形を作ります。



牧草は、牛の餌になります。 空気が入らないように、ラップで巻き、乳酸発酵させ、良質の餌になります。



作業は、ほぼ終了しました。 残りは明日になります。

平塚市の統計によると、平塚市の酪農、養豚などを中心とした畜産業は、神奈川県下でも有数の地域。中でも乳牛の飼育頭数は県下でトップクラスといわれ、大都市への牛乳の供給源となっているそうです。

金田地区の乳牛を含めた牧場の推移をみると、現在、飯島地域の1か所で営業が進められています。以前あった乳牛の経営農家、2か所が閉じられ久しくなります。

平塚市の酪農業は、経営農家数が減少したとはいえ、豊田地域には散見されます。休日に大賑わいの牧場も近隣にあり、今回見た牧草ロールは飼料用としてこれらの牧場に出荷されるものと思われます。